5月　令和5年5月1日

ちびっこの森通信 vol.72

☆★今月のテーマ★☆

・戸外遊びから草花や昆虫と触れ合い、季節を感じる。
・「母の日」を通して、お母さんに感謝の気持ちを持つ。

～今月の園内学習～

・足し算…6の段
・掛け算…6の段
・絵画カード…燕子花図屏風　他
・声に出して読みたい日本語…
「草枕」夏目漱石
・歴史カード…国木田独歩　他
・国旗カード…アジア地方
・地理カード…関東地方

♫今月の歌♫

◇こいのぼり
◆ホ！ホ！ホ！

～行事予定～

・書道教室…11日・18日・25日・30日
・体操教室…10日（2歳児/4・5歳児）
12日（0・1歳児/3歳児）
・テノール音楽教室…15日
・リトミック教室…16日（幼児）
23日（乳児）
・英語教室…17日（乳児）
24日（幼児）
・身体測定…18日（乳児）
19日（幼児）
・お誕生日会…26日
・避難訓練…29日

～保育のポイント～

今回はソニー創業者で元幼児開発協会理事長の井深大さんの「幼稚園では、遅すぎる」の中から“どの子も0歳からの育て方ひとつで能力を伸ばしていける」から抜粋です。バイオリンの早期才能教室で世界中の注目を集めている鈴木鎮一先生の言葉「どの子も育つ、育て方ひとつ」は、乳幼児期の育て方次第では、かなりの程度まで能力を伸ばすことが可能ということを示しています。所謂、「鈴木メソード」と言われる独特の幼児教育を数十年前から続けてこられ当初は世間の常識通り、小・中学生以上を対象にしていたそうです。すると、よく伸びる子と伸びない子の差がどうしても歴然としたそうです。そこで、先生はもっと早くやったらどうか、というわけで対象年齢をどんどん下げていった結果、その差が縮小していったそうです。これはたまたま鈴木先生がバイオリニストのケースですが、これはどんな分野にも適用できるというのが幼児教育の定石となっています。先生の「能力の法則」に「能力は、生命が繰り返しの刺激に対して、善も悪も美も醜も区別なく、その生命体に能力として身につけていくもの」で脳が段々と出来上がる乳幼児期が一番吸収がいいことも脳科学的に立証されてきています。ですから、大人の「これはまだ早い」という固定観念は捨て、いろんな刺激（音、色、感触、物、体験機会など）を与え、興味あることを見つけ、特化する環境を提供し続けることがお子さんの可能性を伸ばすことになるのではないでしょうか？

「ひよこ」と「りす」組だより

新年度がスタートして早くも1ヶ月が経ちました。親元をはじめて離れて見ず知らずの子や保育従事者に囲まれた家庭とは違う環境に戸惑いと不安を隠せず、随分と大変な保育園生活のはじまりとなっていました。そんな不安を抱えた子たちも「慣らし保育」を経て、除々に周りのおもちゃやお友だちへの意識が芽生えて泣き止み、笑顔で過ごせるようになってきたのは何よりと受け止めています。そんな中、製作で早速、クレパスで画用紙にお絵描きしたり、手に絵の具をつけてフィンガースタンプのはじめて尽くしのことにも意欲的に取り組めていました。こどもたちがこれからさらに安心してご家庭と同様に変わらない気持ちで安心して過ごしていけるように見守り、楽しく過ごしていただけるようにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

「きりん」と「こあら」組だより

心地よい風と春の陽気に誘われるように外遊びを楽しむこどもたち。きりん組は新たに加わったお友だちの不安そうな表情に心配顔になり、時には傍で「大丈夫だよ」と言わんばかりにアイコンタクトをするなど、心優しいところを見せてくれています。そんなこともあり、涙顔の子たちもようやく落ち着きを取り戻し、みんなが一緒に外遊びに出掛け、気持のいい外気浴で気分転換を図ることができるまでになってきたのは喜ばしく感じています。室内では製作、リトミックなどの外部講師のレッスンや食事などを積極的に取り組む姿が見られます。一方、こあら組は「１階」から「２階」という新しい環境に慣れ、新年度に心弾ませています。みんなは進級した喜びに加え、顔馴染みの仲良しメンバーで身の回りのことにより前向きに取組んだり、食事も苦手意識を克服しようと頑張っています。お友だち関係も以前にも増して、お互いに声かけしたりして戸外では自然探索で盛り上がり、春を満喫しています。

「ひつじ」と「ぞう」組だより

みんなの進級を祝うように桜から色鮮やかなツツジが街並みを彩る季節となりました。ひつじ組の室外の活動では、ピクニックごっこやどろんこ遊びなどで遊びの幅を広げ、お互いによく声を掛け合いながら自然をより親しむ様子が見られました。農場をはじめとした自然観察をし、その場で感じたことや気づいたことを描画するなどして想像力をたくましくしています。ぞう組は、戸外へ出るとみんなde「鬼ごっこ」がブームとなっています。というのも、鬼などの選出など細かいルールを確認し合い、ゲーム感覚で楽しむことができるところが魅力となっているようです。そんなところに、年長児として成長を垣間見ることができます。また、「ポストが人を育てる」と言われるように、年長となり今春卒園した子たちの残像を追いかけるように、自分たちで見よう見まねで役割を果たそうと日々頑張ろうとする姿が素晴らしいと感じています。これから日差しが厳しくなり気温上昇で脱水防止からこまめの水分補給と適切な休憩などを取りながら、外遊びを満喫していきたいと思います。

給食だより　～すごい「噛む」パワーに注目！～

直立二足歩行をはじめた人間の祖先の脳は今から百万年ほど前に、四百～五百グラムから千グラムにまで進化した、その大きな要因は食べ物をよく咀嚼するようになったから、と言われています。今回は(噛む)咀嚼に注目したいと思います。脳に入る運動情報は「顎」、「手」と「足」の3種類で、その情報量は足と手がそれぞれ25％に対し、顎は50％。よく噛むことは脳を活性化すると言われる所以ですね。つまり、(噛む)咀嚼は、一般的に摂食や消化機能に加えて認知機能の向上など脳の働きにも有益だということが分かってきてからなのです。まず摂食や消化機能には咀嚼で分泌される唾液により食べ物を噛みやすく、味覚を敏感にし、口を滑らかにして乾燥を防ぐ効能があります。それだけでなく、唾液の大半が免疫物質で細菌に対しプロテクトしたり、発ガン物質を減らす物質も含まれているのも重要な点と言えます。また、認知機能では、唾液は体内に吸い込まれてホルモンの働きのように皮膚、歯や口腔粘膜などの細胞を増やすことで歯を強くすることなどに寄与しています。また、食後90分後に記憶に関わる脳の部分(海馬)を刺激するホルモンが分泌され、数々の記憶を呼び覚ましてくれる、ということも分かってきており咀嚼は脳を活性化すると言われる所以となっています。「噛む」ことは、単に食材を味わうだけでなく有益な刺激が身体の各部に行き渡り、”元気の源”となっていますので今一度、「噛み、噛む」の効能を再考し、実践することで健康に過ごしていくパワーを獲得するようにしましょう！